市民が笑顔になれる小林市を目指して!!

第４代小林市長

みやばら　よしひさ

宮原 義久

宮原市政「スタート」

宮原義久市長による新たな市政運営が始まりました。小林市をよりよいまちにしていくために、どのようなことに取り組んでいくのか宮原市長に今後の市政の展望を伺いました。

宮原義久市長プロフィール

昭和 38 年１月１日生まれ、55 歳。宮崎大学畜産別科修了。平成 11 年から市議会議員、平成 15 年から宮崎県議会議員（うち平成 28 年４月～平成 29 年４月まで宮崎県議会副議長）、平成 30 年４月に小林市長就任。細野湾津でいちご農家を営む。

これまでの経験を生かし市政発展に努めます

このたび、市政運営の重責を担わさせていただくこととなりました。14年半の間、県議会議員として培った経験を生かし、市議会をはじめ各団体などと協力しながら、さらなる市政発展に努めてまいります。

人口４万人を維持する必要性を強く感じる

昨今、全国的に地方の人口減少が叫ばれており、小林市も現在、約４万５０００人の人口が、２０３０年には４万人を切ると予測されています。人口減少は、小林に暮らす市民の活力が衰退してしまうほか、地方交付税の減額など財政的にも大きな影響を与えます。そのため、人口４万人を維持する必要性を強く感じています。

子どもから高齢者までが笑顔でいられるように

そういった背景の中で、「市民が笑顔になれる小林市」を目指し、「医療・福祉・教育・子育て支援」、「安心安全で魅力ある元気なまちづくり」、「地場産業の振興と雇用の促進」、「スポーツ文化活動の支援」の４つを大きな柱として市政運営を図ってまいります（具体的な事業は左の「重点施策」を参照ください）。

子どもから高齢者まで全ての世代が笑顔でいられるために、まず大切なことは、「健康であること」です。そのため、子育て世代への医療費の助成や産婦人科をはじめとする医療体制の充実、各種健康づくりにより、誰もがいつまでも健康で笑顔に暮らせるまちづくりを進めてまいります。

「対話と決断」を胸に若者や女性のアイデアを

各種施策を進める上で、私の政治姿勢である「対話と決断」を胸に、本当に地域にとって必要なことは何かを市民の皆さまとの対話の中から見い出し、実現に向け決断し行動に移してまいります。

また、全国の先進事例などを実際に見て参考にすることも大切です。そして、それらを模倣するだけでなく、若者や女性の視点も大切にして、積極的にアイデアや発想を取り入れながら、限られた財源の中で、効果的な事業展開を図ってまいります。

市民目線で市政運営に取り組む

今後４年間、市民目線での対話の姿勢を心がけ、不退転の決意で市政運営に取り組んでまいりますので、ご理解ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

市政運営の４つの柱 重点施策

医療・福祉・教育・子育て支援

●医療体制の整備充実●中学校卒業までの医療費助成の拡充●子どもから高齢者までの健康増進●子どもを産み育てやすい環境整備●障がい者・弱者・高齢者に優しいまちづくり●教育の環境整備

産業・雇用対策の推進

●地元農畜産物の販売力強化と振興●畑地かんがい事業を活用した営農推進●中心市街地の活性化●創業・起業の支援体制の整備●企業誘致の促進●観光振興の推進

安心安全な元気なまちづくりの推進

●各地域まちづくり協議会の支援拡充●通学路・道路の危険箇所の整備改良●吉都線利用の促進●防災・減災対策の強化●公民館整備と活用の充実●情報格差の解消●少子高齢化・若者流出による人口減少対策●空き家利活用と対策

スポーツ・文化活動の支援

●スポーツ施設の現状調査と整備●国際交流と国際化の推進●スポーツ・文化・芸術関係者の活用と交流●スポーツのまち小林の推進●スポーツ合宿の誘致●小野湖を活用したボート競技の振興